（4）情報リテラシー教育における図書館の役割と実証的展開

図書館情報メディア研究科　歳森　敦
図書館情報メディア研究科　逸村　裕
図書館情報メディア研究科　宇陀則彦
システム情報工学研究科・学術情報メディアセンター　佐藤　聡
システム情報工学研究科・学術情報メディアセンター　古瀬一隆
附属図書館協力者　安島明美，浅野ゆう子，守谷美佐子，氣谷陽子

１．本プロジェクトの開設経緯と問題設定

平成17～19年度の研究開発室研究プロジェクト「図書館リテラシー教育の教育組織との効果的な連携に関する企画・実施」では，教員・大学院生・附属図書館職員からなる開発チームによって図書館利用教育のコースウェア開発を行い（平成17・18年度），そのコースウェアにもとづき平成19年度に総合科目（筑波大学における学群１・２年次向け選択必修科目）を開講した。特に，附属図書館が提供するサービスを解説する４回分については，附属図書館職員が非常勤講師としての発令を受けて講師を担当した。 これは，図書館職員の専門能力を情報リテラシー教育において直接的に活用することに実験的に取り組んだものである。

19年度末で当該プロジェクトの主査が退職したため，２年目以降の授業実践を引き継ぎ，さらなるコースウェア改善と図書館の役割に関する検討をすすめるために，平成20年度から「情報リテラシー教育における図書館の役割と実証的展開」と題する研究プロジェクトを組織することになった。本研究プロジェクトの目標は，前プロジェクトの成果を引き継いで，以下の課題に取り組むことである：

・より多様な視点で演習を評価するため受講者数を増やすこと
・実践の反省にもとづく現行コースウェア改訂
・コースウェアのe-learning教材化
・附属図書館職員による講師担当制に対する評価

２．教育実践

総合科目による教育実践に関しては，宇陀則彦（図書館情報メディア研究科・准教授）が平成20年度のオーガナイザとなり，科目名を「図書館情報リテラシー」から「知の探検法」と改めた。内容や附属図書館職員が非常勤講師として担当することなどは前科目を踏襲している。平成20年度のプログラム・担当講師を表１に示す。受講者数は14名（登録18名；前年度は登録17名，受講12名）と微増したが，依然として受講希望者が極めて少数であることが大きな問題である。

受講者数が少ない原因として，１）１コマの講義科目である総合科目中唯一２コマ連続の演習科目で負担感があること，２）通常の総合科目の定員は100～300名程度だが，本科目は最も少ない40名で定員超過による人数調整のリスクが大きく思える（過去の受講者数は非公開）こと，の２点が考えられる。後者については，利用可能なPC教室が制約になっていたが，全学計算機システムの提供が始まり80名教室が確保できたので，平成21年度からは定員を80名に拡大することとした。

受講者の受講動機を要約すると表２のようであり，自分の情報検索能力を拡大するため比較的強い動機を持って受講している学生が半数程度を占めている。研究志向のニーズに対しては，全学類を対象とする一般的な内容で構成しているため，受講者の期待には十分応えていない可能性がある。

３．受講者の評価

総合科目に対して共通に行われている授業評価の結果は表３のようであり, 14名の受講者全員が回答した。少人数であることと演習科目であることから評価が高めに出やすいことを割り引いて考える必要があるが, 総合評価（11）で受講者全員から肯定的評価を受け，その他の項目も大半から肯定的評価を受けているのみならず，ほとんどの項目で「大いにそう思う」を選択する者が過半であり，受講者が高いレベルで肯定評価していることが特徴である。

個別の評価項目を見ると,「４．私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「７．この授業の内容はよく理解できた」で「大いにそう思う」の回答者数が過半数を割り込むが, 全体でもこの２項目の「大いにそう思う」の構成比は相対的に低く，一般的な評価の傾向と理解すべきだろう。一方,「９．授業担当者の話し方に熱意が感じられた」の「大いにそう思う」の回答者数は全項目中最も少ない４名であるが, 全体では本項目の「大いにそう思う」の構成比は他項目に比べて最も高く，本科目に対する固有の評価と受け止めなければならない。授業の進行速度については,「速すぎた」「やや速すぎた」を選択した回答者が14名中６名 (42.9%) であり, 全体の傾向と比べても進行速度に関してはやや速すぎるとする評価が多い。進行速度については，内容の精選や講義・演習比率の調整などにより，平成21年度のプログラムで改善を進める予定である。

４．今後の課題

本研究プロジェクトは，大学における情報リテラシー教育において，附属図書館が主たる担い手になり得る可能性に着目して，その条件整備や実験的な実装を試みることを志向している。そのためには，情報リテラシー教育そのものに対するニーズの把握（新入生が備えている能力の把握や，各学類の教育課程上前提となる能力の把握，あるいは，総合科目の受講者数を通じて学生の自覚的な受講希望が確かにあるという実証）と適切な教育プログラムの構成（e-learning教材を含めたコースウェアの開発と評価，専門分野に特化した教育の必要性の吟味, 既存の情報処理教育の体系との調整, 既存の図書館利用教育－フレッシュマンセミナーでの図書館紹介や各種講習会－との役割分担の明確化）が必要と考えられる。

平成21年度にはこの中でも優先順位が高い，現行コースウェアの改善とそれにもとづくe-learning教材の試作，学生の情報リテラシー能力調査の実施をめざすとともに，受講者数確保のための広報活動をすすめる。

表１　授業計画

学期	週	月日	講義題目	講義担当者 連絡先	所属	講義概要
第3学期	1	12月１日	知の探検に出かける	宇陀 則彦	図書館情報メディア研究科	自律的・能動的学習とは。知のトレジャーハント
	2	12月８日	一般事項を調べる	宇陀 則彦	図書館情報メディア研究科	サーチエンジンを使って一般的な課題を調べる。
	3	12月15日	専門事項を調べる	辻 慶太	図書館情報メディア研究科	雑誌記事索引、専門機関の情報源を用いて専門情報を調べる。
	4	12月22日	公的情報を調べる	辻 慶太	図書館情報メディア研究科	政府情報や公的機関の情報資源を用いて公的情報を調べる。
	5	１月23日	図書を探す	安島 明美	附属図書館	図書館ポータルの活用法を学ぶ。
	6	１月26日	雑誌を探す	守谷 美佐子	附属図書館	図書館ポータルの活用法を学ぶ。
	7	２月２日	論文を探す（1）	浅野 ゆう子	附属図書館	データベースを使って雑誌論文等の探し方を学ぶ。
	8	２月９日	レポートの書き方	宇陀　則彦	図書館情報メディア研究科	レポート、論文、感想文の違いや引用の仕方を学ぶ。
	9	２月16日	論文を探す（2）	安島 明美	附属図書館	データベースを使って雑誌論文等の探し方を学ぶ。
	10	２月23日	課題発表	辻 慶太	図書館情報メディア研究科	受講者それぞれが設定した課題をどう調べたかを発表する。
	11					

表２ 受講の動機（レポートからの抜粋；動機について言及が無い２名は除外）

…コンピュータは使えるのに，情報を探すのに，まさに「行き当たりばったり」な方法で探していて，…Googleで検索しても，断片的に知識を得られるだけでした。論文を探すにも，探し方から調べないと行けない状態なので，論文（特に海外の）の探し方などいろいろ分かったらいいなと思っています。
この先，割と役に立つかなと思ったのと，単純に楽そうであったから。上限が40名で色々心配したが，問題なさそうなのでほっとしている。
部活の先輩に図書館情報学群の人がいて，…その人のレファレンスサービスの講義の課題を見せてもらったとき，楽しそうだと思って興味を持ちました。…図書館通いも情報検索も結構好きなので，…この講義を通してより高度な情報リテラシーを体得できればと思います。
毎日コンピュータに接し，レポートを書く際もサーチエンジンを駆使している。しかしながら図書館で紙の媒体を調べたり，図書館で利用できるデータベースを利用したりしたことはほとんどない。…情報検索の範囲をさらに拡げてくれるのでないか，と思い履修することを決めた。
実は今回自分は総合シラバスを見ないでこの授業を受けに来たので，その響きだけで漠然と調べ学習の役に立つようなスキルが身につけばと思っていたのですが，まさしくそういう授業なので安心しています。
…本当に必要な情報は何であるかをうまく判断できず右往左往することが多かった…レポートでもグーグルで検索するばかりです。そこでこの科目に期待するのは，本当に必要な情報の探し方，そしてそれを研究にたいしてどのように活用するかを学びたいということです。

この科目にたいする期待としては，図書館の利用方法を学べることが筆頭に上げられる。データベースの論文検索とか，まったく教わっていないので…その方法を学んでいきたい。
これから，卒論を書くので，その際の情報の検索についての知識を学ぶ事ができればと考えています。
○○学類には卒業論文を書くことの授業がないことに驚いた。今後，大学院に進学を考えているが，今まで論文を書いたこともなく，また，どの文献検索をするにあたっても○○しか使用したことがない私自身，非常に不安を覚えたのでこの科目を履修した。
僕はパソコンを使って調べ物をするのがあまり得意とは言えないので，この機会に色々とやり方を覚えたいと思います。
…自分の所属していた演習においてはどうしても良い評価を得られず，自分の情報収集力不足によるふがいなさを感じてばかりいた。…文献が見つけられない，そこからどう書けばいいかわからないといった「二重苦」から脱するきっかけを見つけることがこの科目を選択した目的である。
自分は資料を探したりする技術に興味があったのでこの授業を履修することにした…

表３ａ．学生による授業評価結果（１）

上段　本科目受講者の回答数（人） 下段　３学期全科目全受講者3635名の参考値（％）	大いにそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない	計
4. 私はこの授業に意欲的に取り組んだ。	6	6	2	0	14
	22.2%	60.5%	15.2%	2.1%	
5. この授業はシラバスに沿って計画的に行われていた。	7	6	1	0	14
	30.6%	60.8%	7.2%	1.4%	
6. 授業担当者の話し方は聞き取りやすかった。	7	6	1	0	14
	25.4%	61.9%	11.1%	1.6%	
7. この授業の内容はよく理解できた。	5	8	1	0	14
	19.0%	61.7%	16.8%	2.4%	
8. この授業における教材・資料の提示（板書、スライド、OHP、ビデオ、DVD、パソコン、教科書、プリントなど）が理解の促進に効果的であった。	9	5	0	0	14
	31.9%	57.0%	9.3%	1.9%	
9. 授業担当者の話し方に熱意が感じられた。	4	9	1	0	14
	32.3%	58.1%	8.1%	1.5%	
10. この授業により、新しい知識や考え方が修得でき、さらに深く勉強したくなった。	8	5	1	0	14
	27.6%	55.8%	14.5%	2.1%	
11. 私にとってこの授業は総合的に満足できるものであった。	9	5	0	0	14
	27.0%	58.1%	12.7%	2.2%	
12. この教室（体育施設、演習室、講堂などを含む）の設備は十分に整備されていた。	9	5	0	0	14
	27.2%	56.8%	14.1%	1.9%	

表３ｂ．学生による授業評価の結果（２）

		速すぎた	やや速すぎた	適切であった	やや遅すぎた	遅すぎた	計
13.	この授業の進行速度は適切であった。	2	4	8	0	0	14
		7.2%	22.3%	68.4%	1.9%	0.2%	
		多すぎた	やや多すぎた	適切であった	やや少なすぎた	少なすぎた	
14.	この授業の受講者数は適切であった。	1	1	11	1	0	14
		8.7%	25.5%	63.0%	2.5%	0.3%	